

SC-29 終わるまで終わっていない

“It’s not over until it’s over” by Lary Faris

抄訳：薩川俊三

メジャーリーグの伝説のキャッチャー、ヨギ・ベラが「終わるまで終わっていない」という格言をよく引用した。大部分の人は、彼が野球のことを言っていると思っていたが、私は彼がスプリングキャンプ中にシャフルボードをプレーして学んだと思っている。

世界最高のシャフルボードプレーヤーの一人、カナダのロジャー・バイロンがテキサス出身のアーノルド・ジョージとプレーした試合でそのようなことがあった。バイロンは40対46で6点リードされていた。フレームゲームの最終フレームで、イエローのジョージがハンマーを持っていた。ブラックのバイロンは第7ショットをする時で、自分の7得点を隠していた。ボード上を、右図に示す。

野球ファンの様に、シャフルボードの偉大な戦略家達が観戦していて、プレーヤーがどんなショットをすべきかを考えていた。バイロンはスーサイドアレー・ショット（相手のセントピートの外側を通すキッチンに入り易い、自殺の裏通りショット）をして、自分の7得点の横に第2の7得点を隠すべきだという人がいた。ジョージのハンマーショットを邪魔するため、イエロー側のセントピート位置に置いて、イエロー側をブロックすべきだという人もいた。バイロンは別の戦法を選んだ。頂点のブラックディスクを、10エリアの中にバンプ（ディスクを突いて得点させること）した。私達全員は、それは素晴らしい選択で、見事なショットだと思った。

今度は、ジョージの前には、隠れているブラックの17得点があった。ジョージは、6点リードとハンマー得点では対応できないと思われた。私達はバイロンの見事なプレーに驚いていたが、これは、「終わるまで終わっていない」ゲームだった。ジョージはゲームの最終ショットを、自分のセントピートの右側に当てて、10エリアの中に滑り込ませ、そこにあったバイロンのブラック10得点を追い出し、そして10エリアに得点した。ジョージは勝った。不可能と思われたショットだった。ジョージはゲームの後で、「私はやらねばならなかった」とだけ言った。

バイロンから、私達は、やれることを全て探して、最善を尽すことを学んだ。ジョージから、私達は決して諦めないことを学んだ。終わるまで終わっていない。ヨギは正しかった。そして両人から、私達は、シャフルボードは永遠にエキサイティングなスポーツであることを学んだ。プレーするのも、観戦するのも、研究するのもエキサイティングだ。

